

■ 1 2009(平成21)年度に実施した主な事業

1 創立370周年記念事業の展開

1639(寛永16)年に西本願寺境内に創設された「学寮」に始まる本学は、2009(平成21)年に創立370周年を迎えた。この記念すべき年に、「進取と伝統～新しさを重ねて370年～」を統一テーマとして様々な事業を展開した。

記念事業の骨子は、「教育・研究・学生活動支援事業」「施設設備の環境整備事業」「積立金事業」「記念式典事業」の4事業からなり、特に記念式典事業においては、事業のねらいを ①研究成果の発表 ②学生の参画 ③社会との連動 ④大学への理解促進 の4つに定め、「記念式典」「国際学術シンポジウム」「関連事業」の3つの領域で様々な事業を展開した。

● 創立370周年記念事業の実施

記念事業の実施は2008年10月に始まり、2009年度末(2010年3月末)までで39の事業を実施し、延べ2万人を超える参加者を集めた。

特に、2009年10月24日(土)に開催した「創立370周年記念式典・祝賀会」においては、大谷光真浄土真宗本願寺派門主、山田啓二京都府知事、門川大作京都市長をはじめ、国内外の大学学長、行政、経済界、関係校などから500名を超える来賓が一同に集い、厳かさの中にも華やかさの光る式典・祝賀会を催した。この他にも、北は札幌から南は福岡まで全国へ向けて本学を発信した「全国8都市リレーイベント」や、ハーバード大学をはじめ世界の歴史ある大学の代表者を招聘して開催した「21世紀歴史大学シンポジウム」など多岐にわたる事業を開催し、本学への理解の促進とともに、本学のこれまで取り組み、またこれからの本学の進む方向性を大きく発信した。

● 創立370周年記念事業募金

創立370周年記念事業を実施するにあたり、「創立370周年記念事業募金」を募った。目標金額は40億円とし、2005年10月から2009年12月までの5年間にわたり寄付金を募った結果、多くのご厚志を賜り、申込件数が4,134件、募金申込総額が2,581,526,100円となった。この寄付金は、教育・研究・学生活動支援、施設設備の環境整備、積立金、記念事業の推進に活用する。また、寄付者のご厚志を永く顕彰するため、寄付者全員の芳名録を作成するとともに、龍谷ミュージアム内に寄付者銘板を設置、個人5万円、法人および団体50万円以上の寄付者のご芳名を掲載し、10万円以上の個人寄付者に龍谷ミュージアムフリーパスポート(永久入館証)を発行する。

● 創立370周年記念事業募金

● 第5次長期計画の策定

第5次長期計画は、2010年度から10年間にわたって展開する全学の行動計画である。

2009年度は、第5次長期計画グランドデザイン「Ryukoku Visoin 2020」を策定するとともに具体的な事業の方向性として「アクションプラン」を策定した。本学の「使命」、「基本方針」、「2020年の龍谷大学像」を定義し、その実現のための「課題と改革の方向性」を明示した。

2 第5次長期計画の策定

2009年度は、第5次長期計画グランドデザイン「Ryukoku Visoin 2020」を策定するとともに具体的な事業の方向性として「アクションプラン」を策定した。本学の「使命」、「基本方針」、「2020年の龍谷大学像」を定義し、その実現のための「課題と改革の方向性」を明示した。

2009年度は、第5次長期計画グランドデザイン「Ryukoku Visoin 2020」を策定するとともに具体的な事業の方向性として「アクションプラン」を策定した。本学の「使命」、「基本方針」、「2020年の龍谷大学像」を定義し、その実現のための「課題と改革の方向性」を明示した。

主な創立370周年記念事業

■ 創立370周年記念式典・祝賀会 (2009年10月24日開催)

行政・経済界・国内外の大学学長など約500名の来賓が一同に集い開催。

記念式典では荘厳な音楽法要が勤修される中、本学卒業生でオペラ歌手の花月真(かげつまこと)氏と本学学生による奉讃演奏が行われ、式典を華やかに彩りました。

会場をウェスティン都ホテル京都に移した記念祝賀会では、祇園甲部歌舞会による京都の伝統伎芸「手打(てうち)」、人間国宝茂山千作師に出演いただいた「茂山千五郎家狂言」の催しを交え、多くの方々とともに創立370周年の慶びを分かち合いました。

■ 21世紀歴史大学シンポジウム (2009年10月25日開催)

第1部では、本学同様、世界的に歴史のあるハーバード大学・チュロンコン大学より代表者を招聘。若原学長とともに「21世紀の世界を踏まえた大学教育のあるべき姿」について意見交換がなされ、三者による共同宣言が発表されました。

第2部では、本学とハーバード大学との間で行われてきた学術交流の成果として、21世紀に親鸞思想が果たす役割についてハーバード大学の5名の研究者が発表。今後も両校の学術交流を深めていくことが確認されました。

第3部では、9カ国11大学の本学学生交換協定校代表者が一同に会し、「教育の国際連携政策と日本の大学に期待すること」と題した率直で熱いメッセージを発信しました。

■ 全国8都市リレーイベント (2009年5月～10月開催)

全国へ向けて龍谷大学を発信するため、北は札幌から南は福岡までの全国8都市において開催。本学学生と地元教育連携校・関係校等の高校生との熱意溢れる合同コンサートを披露するとともに、五木寛之氏・松平定知氏・加賀美幸子氏・茂木健一郎氏を招いて『生きる』をテーマとした講演会を実施し、全国の校友、一般の皆様にも本学への理解を深めていただく貴重な機会となりました。

最後を締めくくると大津会場では、野依良治先生(2001年ノーベル化学賞受賞)をお招きし、「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム」を開催いたしました。



2010年度からは、これらグランドデザイン及びアクションプランに基づき、大学が有する「教育」、「研究」、「社会貢献」、「大学運営」、「財政・施設整備計画」といった5つの機能毎に、それぞれ改革策を策定し、審議決定した事業から順次、実施展開を図る予定である。

とりわけ、教育を重視し、教学的充実と発展を図るべく、各種施策に取り組む。

●第5次長期計画スローガン

本学を構成しているすべての人々が、互いに心を通わせ、学びあい育ちあいながら、現代世界に呼応し響きあう教育を展開し、すべてのいのちが輝く世界の実現に寄与する大学づくりを共に推進していくことを希求して、「進取と共生、世界に響きあう龍谷大学」を第5次長期計画のスローガンとして定めた。

●龍谷大学の使命と基本方針・2020年の龍谷大学(将来像) <使命>

龍谷大学は、建学の精神（浄土真宗の精神）に基づく、すべての「いのち」が平等に生かされる「共生（ともいき）」の理念のもと、「人間・科学・宗教」の3つの領域が融合する新たな知の創造に努めるとともに、人類社会が求める「次代を担う人間」の育成を図り、学術文化の振興や豊かな社会づくり、世界の平和と発展に貢献することを使命とする。

<基本方針>

（1）教育にかかる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を育成する。

（2）研究にかかる基本方針

総合大学としての多様性と学際性を生かし、伝統と地域を基盤にした特色ある研究や国際水準の強みのある研究に取り組み、国際的な学術文化の向上と科学技術の振興、地域社会の発展に寄与する。

（3）社会貢献にかかる基本方針

社会の要請に応じて、産業界や行政、NPO、NGO等と連携を図りながら、社会人等に対して、生涯にわたる多様な学びの機会を提供するとともに、研究や社会連携活動を通じて持続可能な社会形成に寄与する。

<2020年の龍谷大学（将来像）>

- （1）建学の精神に基づく人間教育によって、豊かな人間性と創造性を育み、広い学識と進取の精神を培い、共生（ともいき）の精神を備えた人間を養成し世界に誇ることができる教育力のある大学になる。
- （2）正課・課外活動を通じて、学生の主体的な活動を積極的に支援するとともに、学生自らの人間的な成長を促し、自律的に行動する学生を輩出する大学になる。
- （3）地域社会と国際社会に貢献することのできる優れた研究基盤を形成し、教育を重視する大学を実現し、社会の幅広い分野で貢献しうる有為な人間を輩出する大学になる。

- （4）長い歴史に育まれてきた伝統や京都・滋賀という地域を基盤にした特色ある研究を展開するとともに、総合大学ならではの学際的かつ個性豊かで国際的に通用する研究を推進する。そして、その成果を大学における研究・教育のみならず、広く社会全体に還元することにより地域に貢献するとともに世界で躍動する大学になる。

- （5）学生・教職員のそれぞれが、国際的な交流や共同研究をおこない、教育・研究の国際化をさらに進め、多文化共生キャンパスを展開するとともに、教育・研究・社会貢献において、情報基盤が整備された広範な国際的ネットワークを有する大学になる。

●第5次長期計画の計画推進上の特色

これまでの計画は1期10年の「長期計画方式」であったが、第5次長期計画では計画期中における社会環境の変化や文教政策動向、さらには計画当初に展開した施策の成果と課題を踏まえ、適宜、改善を図りながらグランドデザインで掲げた「2020年の龍谷大学像」を実現すべく、1期5年の中期計画を2期にわたって展開する「中長期計画方式」を採用する。

また、事業推進を実質化させることを目的に、事業実施主体の責任をより明確にするとともに、改善サイクルを意識した事業の進捗管理に取り組む。

このように、第5次長期計画では、より大きな成果の創出を企図し、新たな推進方法や体制を取り入れたことが、従来と比較して大きな違いと新たな特徴となっている。

3 政策学部・政策学研究科の設置(2011年4月設置予定)

1992年の政治学科増設以来、法学部では、政治学分野を教育の柱の一つとして位置付けて教学を展開し、NPO・地方行政コース等をはじめとする多様な取り組みは、国や地域社会から高い評価を得てきた。

このような知的資源やこれまでの活動の成果をさらに発展させるため、本学では政治学科の教学資源を中心としながら、狭義の政治学の枠を越えた学際性を有する政治系の学部及び大学院を設置することが求められるとの認識のもと、法学部政治学科を発展的に改組することとし、2011年4月に政策学部及び政策学研究科を開設することを決定し、教学内容の検討や行政手続き等の各種準備活動を進めた。

●政策学部設置の目的

建学の精神に基づいて、共生の哲学を基礎に、政策学の教育と研究を通じて広い教養と専門的な知識を身につけ、社会の持続可能な発展のために主体的に行動するとともに、自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、高い公共性と市民性を持つ自立的な人材を育成することを目的とする。

●政策学部の概要

入学定員：250名、編入学定員：5名、

収容定員：1,010名、

学 位：学士（政策学）

●政策学研究科設置の目的

<修士課程>

政策学部・政策学研究科（2011年4月開設予定）

政策学部で身に付く力

持続可能な社会の実現に貢献できる政策的発想力を身に付けます。また、現代社会や地域社会が抱える様々な課題解決に取り組むことができる政策的実行力を身に付けます。さらに、まわりの人たちと関係する人々と協力して、課題を達成できるコミュニケーション力を身に付けます。



多様な学びのニーズに応える3つのコース

政策学部では、学修の目標を明確にすること、体系的な科目履修を積極的に進めていくことを目的として、3つのコースを設置します。分野および進路に応じて、3コースからいずれか1コースを3セメスター（2年次前期）に選択し、4セメスター（2年次後期）からコースに所属し、より専門的な学修を進めます。

教育の特色

一大学院とつながる専門教育一

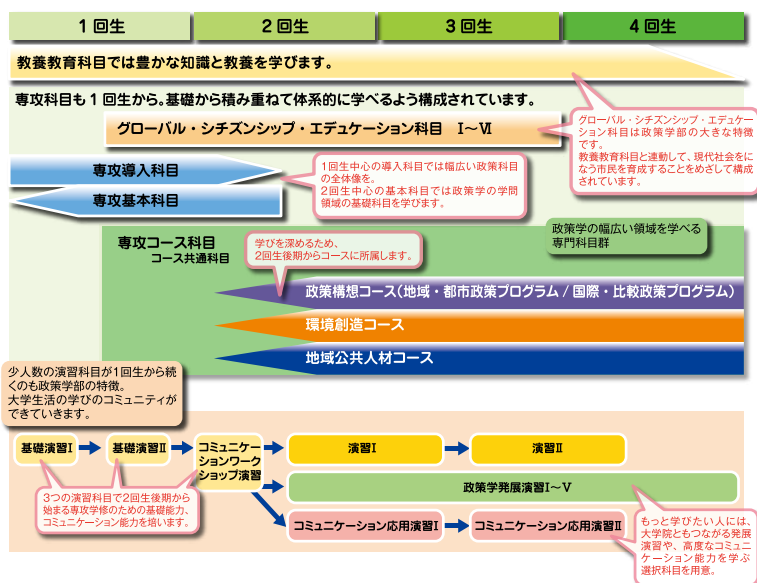
政策学部設置と同時（2011年4月）に大学院「政策学研究科」を設置する予定です。学びを深めた上回生の「もう少し学びたい」という気持ちに応えます。一定の条件を満たした場合、4年次から一部の大学院科目の履修が認められます。学内推薦入学で大学院「政策学研究科」に進学した場合には、その単位を大学院での修得単位に読み替える「早期履修制度」を用意し、より専門的に学修することを可能としました。

一多様な「現場」とつながる専門教育一

龍谷大学政策学部の特徴は、公共政策の多様な「現場」とつながりをもった学びの環境が豊かであることです。2003年以降続く研究プロジェクト「地域人材・公共政策開発システム・オープン・リサーチ・センター」（通称：[LORC]）や、大学院NPO・地方行政研究コースでの地域連携協定などを生かした大学外の現場（地方自治体、NPO、NGO等）との連携も充実しています。公共政策の多様な分野をそれぞれのテーマで、それぞれの「現場」で深めてきた教員陣も魅力です。

一未来につながる資格制度一

（勤）地域公共人材開発機構が認定する「地域公共政策士」に対応したプログラムが、学部レベルでも一部受講できます。龍谷大学が大きな役割を果たしているこの認証制度は、私立、公立問わず京都の公共政策系大学・大学院の共通枠組みとして、「政策の担い手に求められる能力が身につけていること」を保証する地域資格制度。大学だけでなく、NPO、企業、自治体の協力を得ながら、進路につながる資格制度として2011年から本格稼働します。



市民的公共性と持続可能な発展への貢献を志向性として獲得し、地域がかかえる具体的課題を政策分析の対象として扱うことができる政策学の学問的知識を修得し、地域の課題を設定して解決できる能力を有する専門的職業人及び研究者を養成することを目的とする。

<博士後期課程>

市民的公共性と持続可能な発展という考え方を自ら考察でき、地域課題を包括的で統合的な政策によって解決できる政策学の知識と構想力を有する研究者及びより高度な専門的職業人を養成する。

●政策学研究科の概要

入学定員：<修士課程>20名、
<博士後期課程>3名、収容定員：49名
学 位：<修士課程>修士（政策学）、
<博士後期課程>博士（政策学）

4 短期大学部の改組（2011年4月改組予定）

短期大学部は、これまでの社会福祉学教育の実績を礎とし、2011年4月から、社会福祉科を社会福祉学科に名称変更し、学修内容を「社会福祉コース」「教養福祉コース」の2コース制へと整備し、新たにこども教育学科を開設すべく、学修内容の検討や行政手続き等の各種準備活動を進め

た。

●社会福祉学科改組の目的

福祉の基礎を学ぶことで「共生」の理念を具体的に理解し、その上でより専門的な立場から福祉領域や、それ以外の領域において幅広く活躍できる人材育成を目的として、社会福祉学科を設置し、社会福祉コース、教養福祉コースの2コースを置く。

●社会福祉学科の概要（2011年度改組予定）

入学定員：130名 社会福祉コース
教養福祉コース
学 位：短期大学士（社会福祉学）

●こども教育学科設置の目的

福祉の基礎を学ぶことで「共生」の理念を具体的に理解し、その上でこれからのこども教育や保育において真に求められるものの探究に寄与できる人材育成を目的として、こども教育学科を設置する。

●こども教育学科の概要（2011年度設置予定）

入学定員：90名
学 位：短期大学士（こども教育学）

短期大学部改組の概要

こども教育学科 (2011年4月開設・設置認可申請中)

やわらかい心でこどもを学ぶ。保育、幼児教育のエキスパートをめざします。

(保育士養成課程定員90名)

=人材育成=

今までの短期大学部を一新。保育士に加えて、幼稚園教諭二種免許状の取得をめざします。こどもとその家庭環境への理解を深め、保育、幼児教育の両面から「こども」を学びます。将来的には、保護者に対する子育て支援も担える力量をもった人材養成をめざします。

=教育の特色=

こども教育を学ぶには、現場でこどもと共に学び、成長することが大切です。実習のBefore&Afterの学びを重視し、「やりっぱなしにしない」教育を基本とします。実習後のグループ学習では、実習を通して経験した事例や課題等を演劇にして発表したり、討議を行います。

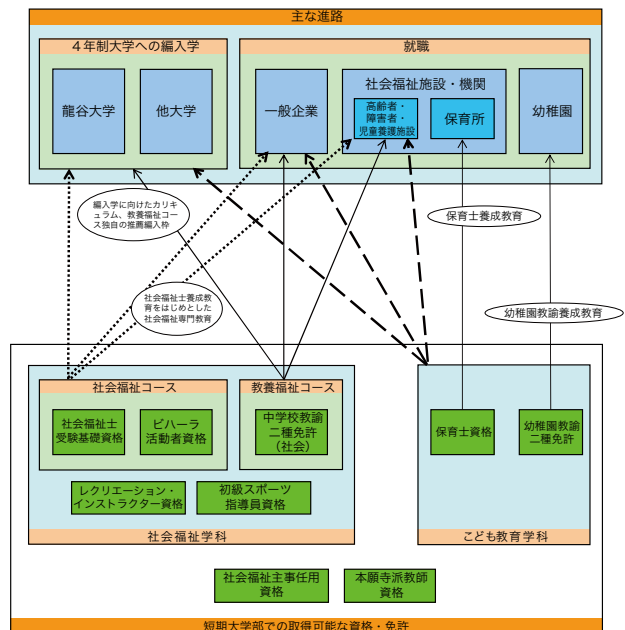
社会福祉学科 (2011年4月名称変更)

・社会福祉コース (社会福祉士養成課程定員80名)

社会福祉全般にわたり基礎となる専門知識と、実践的技能を身につけることをめざします。

・教養福祉コース

現代社会で求められる福祉の基礎知識 (福祉的素養) を身につけ、幅広い柔軟なカリキュラムで多様な進路をひらきます。



取得可能な資格・免許と主な進路

5 理工学研究科博士後期課程 情報メディア学専攻・環境ソリューション工学専攻の開設

2007年に設置した、情報メディア学専攻及び環境ソリューション工学専攻の修士課程を拡充発展させ、理工学研究科博士後期課程に「情報メディア学専攻」及び「環境ソリューション工学専攻」の2専攻を開設した。

●情報メディア学専攻開設の目的

情報メディア学専攻は、21世紀の課題である持続的循環型社会を実現するために、急速に発展する情報科学とダイナミックな展開を図る技術革新の分野において多面的な様相を見せている課題に対して総合的に理解し、その課題解決を追求する人材を育成することを目的とする。

●環境ソリューション工学専攻開設の目的

環境ソリューション工学専攻は、環境問題への対応を図るために、目的解決型の工学的知識に加え、自然環境・生態系に関する幅広い知識をもった、豊かで潤いのある生活環境の創造を志す若い研究者・技能者の育成を目的とする。

6 実践真宗学研究科の開設

「現代社会の諸問題に対して、宗教がいかにしてその使命を果たしうるか」という課題に応えることを目的として実践真宗学研究科を設置した。

●実践真宗学研究科開設の目的

実践真宗学研究科は、教理・教義の研究を中心とする既存文学研究科真宗学専攻が担ってきた教育・研究を基礎として、複雑化・多様化する現代の問題に、実践的・具体的

に対応しうる宗教者のあり方について教育・研究するとともに、社会に求められる宗教的实践者にふさわしい高度な専門的要素の修得を図ることを目的とする。

7 龍谷ミュージアムの設置準備 (2011年4月開館予定)

創立370周年の一環として開設する「龍谷ミュージアム」は、他に例のない仏教に関する総合博物館として、学内外から広く期待されている施設である。2011年4月の開設に向け、2009年度に推進した事項は次のとおりである。

●建築計画

建築に当たっては、年度当初より開始した既存建物 (本願寺会館及び本願寺同朋センター) の解体工事を終えた後、埋蔵文化財調査を経て8月より本格的に新築工事を着工した。その後工事は順調に進み、2010年8月、地上3階地下1階の建物が竣工する予定である。

●展示計画

2008年度末に策定した展示設計図をもとに入札を実施し、展示施工者を決定した。常設展示は、2階を「アジアの仏教」、3階を「日本の仏教」に分け、仏教の起源から現代の仏教までを概観できる内容としている。ただし、開館する2011年4月より親鸞聖人750回大遠忌法要が修行されることから、この年の展覧会を、龍谷ミュージアム開館及び親鸞聖人750回大遠忌法要記念と位置づけ、仏教の源流をたどり、釈尊や親鸞聖人の足跡等を紹介する「釈尊と親鸞展 (仮称)」をテーマとすることを決め、その準備に着手した。

●ミュージアム教員の配置

龍谷ミュージアムの展示や運営全般を担うべく、学芸員

としての資格を有するとともに、仏教を中心とした専門的かつ高度な研究業績を備えた人材を、専任教育職員として3名採用することを決定し、2009年度中に2名に就任頂いた。残る1名は2010年度4月に就任する予定である。これら教員を中心として、開設に向けた具体的な検討を進めている。

8 教育・研究環境の充実

● 瀬田学舎新棟（8号館）の竣工

瀬田学舎の教育環境の更なる充実を図るために、新たな教室棟（8号館）を竣工した。8号館は、1階に300名規模の中講義室2室と600名規模の大講義室を1室、地階に200名の中講義室3室を設けた中・大講義室棟である。600名規模の大講義室では、学部毎に同一学年の学生が一同に会することが可能となり、今後、授業や各種説明会など様々な用途で活用する。

● アバンティホールの取得

JR京都駅南側のアバンティビル9階にあるアバンティホールを、2010年4月に京都市から取得することを決定した。学友会館大ホールとほぼ同じ規模の同ホールでは、充実した設備と交通至便な立地を活かし、課外活動をはじめとする学内活動の場として多様な利用を展開していく。また、引き続き、地域住民をはじめ市民の利用にも供するほか、市民と大学が共同で取り組む新たなプログラム展開も視野に入れ2010年度初旬から本ホールの運用を開始する。

● 大阪オフィスの拡充

2009年9月1日に大阪オフィスの規模を約4倍に拡大し「大阪梅田キャンパス」とし新たな展開を開始した。主な事業内容は、産官学連携事業、生涯学習講座、入試広報（募集）活動、キャリア・就職支援等であり、大阪地域において積極的な事業展開を行うことにより、各種活動の更なる充実を図るとともに、大阪における知名度向上とブランド

イメージの向上に努めた。2009年度の利用者総数は16,830名（2009年4月1日～2010年3月31日）であり、極めて活況な利用状況であった。

● JR瀬田駅近隣の本学バスターミナルの整備

2008年度にJR瀬田駅近隣に購入した土地を本学専用バスターミナルとして整備した。その後、バス会社や警察、地元住民との協議を経て、10月1日より、同バスターミナルから瀬田学舎への直通バスの運行を開始し、瀬田学舎への通学環境の改善を図った。

9 事務職員の人事制度改革について

新たな事務職員態勢を整備する必要性を喫緊の課題として捉え、次の2点を到達目標として、新たな資格制度や給与制度等を取り入れた人事制度改革を行った。

- ①職員一人ひとりが課せられた役割と責任を自覚し、職務に対する意欲を持ち、職能及び専門性を向上させ、それらを職務遂行において発揮できる人事制度を確立する。
- ②職員の人件費枠を遵守しつつ、将来においても適正な事務組織の体制を整備できる人事制度を確立する。

引き続き、2010年度に向けて、「評価制度」「研修制度」「管理職による面接制度」について推進し、総合的な人事制度を構築する。

10 多様な研究の推進

文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業に、「新技術開発による文化財保存・修復科学研究」（古典籍デジタルアーカイブセンター 代表：岡田至弘理工学部教授 総予算額：90,800千円 補助金申請予定金額：52,283千円）及び「里山の現代的利用に関する総合研究」（里山学研究センター 代表：宮浦富保理工学部教授 総予算額：132,135千円 補助金申請予定金額：70,199千円）の2件申請を行い、採択された。